

仕合わせの和



第192号

H. 30. 3. 1

(毎月1日発行)

布施(ふせ)

住職 谷川寛俊

仏教では物に限らず、相手に何かを施すことを布施と言います。これは仏教の大切な「修行の一つ」とされています。では、なぜ布施をすることが修行になるのでしょうか？私達人間には様々な煩惱があります。煩惱とは、欲望のことです。私にも思い当たることが多々あります。つまり人間の欲は果てしないものです。欲望が強いと、どんなに素晴らしい物を与えられても、まだ足りない、もっと欲しいと思ったり、あるいは自分が持っているものを簡単に手放そうとはしません。いつまで経っても満足することが出来ません。たとえば人から金銭や物品を頂戴する事は当たり前のように思い、そのくせ自分が誰かに分け与えるとなると惜しむ気持ちが生まれてきます。しかし中には、与えること

によつて相手が喜ぶ姿を見て、こ

ちらも満足するという事もあります。このように仏教では色々な食欲な煩惱を静めるための修行の一つとして、「布施」と定義付けしています。今、何かを施すことを布施と申しました

が、その時に「こんなに良い事をしてあげるのだから、きつと相手からはもつと素晴らしいものが得られるだろう」などと見返りを求めるのであれば、それは布施にはなりません。分かりやすく例えるならば布施とは、お母さんが赤ちゃんにおっぱいを与えるようなものです。母親は自分の子供に対して「おっぱいを1杯飲んだのだから、百円ちょうだい」などとは勿論言いません。そんな母親はいないでしょう。母親ならば、「早く、元気に育つて大きくなってね」と無条件の愛情をかけながらお乳を与えるでしょう。そのような見返りを求めずに相手のためだけを考えて行う行為が布施の本来の目的であり、行為なのです。そして、そのような気持ちを持つと、それによって今度は自分の心が豊になってくるのです。このことを『喜んでもらえる喜び』と、私は思っています。自分が何か

をすると相手が喜んでくれて、その笑顔を見る事で自分も幸せを感じる皆さんも、そのような経験がありがたと思えます。今月は春彼岸の月です。1週間の仏道修行の期間でもあります。

①布施(施す) ②持戒(規律を守る)
③忍辱(耐え忍ぶ) ④精進(一生懸命に励む) ⑤禅定(心を落ち着かせる) ⑥智慧(正しい思考)。以上の六つの修行を仏教では『六波羅蜜(ろくはらみつ)』と称し大変重んじておられます。この大切な6つの修行の最初に挙げられているのが「布施」なのです。

彼岸入りの日には、まずお仏壇や仏具を清め、お墓を綺麗に掃除しましょう。普段よりも時間をかけて、丁寧に仏壇や仏具の手入れをしましょう。普段は忙しくてなかなかお墓や本堂へお参りに行けない場合もあります。「彼岸の入り」をお墓の掃除

「仕合わせの和」

と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行

玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

や墓石の手入れなどの機会にするのも良いでしょう。これらも尊い「布施」になります。

さて、今年の春の彼岸は三月十八日～二十四日までで、「お中日」は三月二十一日となります。

『六波羅蜜』とりわけ「布施」の実践を心掛けた春彼岸をお過ごし下さい。

